

みぞれは舞わない

十七歳の遺書＝島田清子

一九六七年三月五日 初版発行

定価 三二〇円

著者 島田清子

発行者 大和岩雄

発行所

大^{だい}和^わ書房

東京都文京区関口一の三三

振替 東京 六四二二七

電話 (二〇三) 四五一一

製版・日放印刷 印刷・東光印刷 製本・誠幸堂

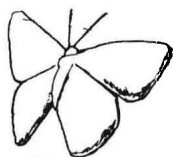
落丁本・乱丁本はお取替え致します

<検印を略す>

© 1967

みぞれは舞わない

十七歳の遺書＝島田清子



大和書房

おかあさん ごめんなさい

あなたの事を考えるとすぐつらいんです

ずっとつらい事に耐えてきたあなた

お母さんには理解できないだろうと思います

別につらい事があるというわけじゃない

わがままなのかもしれません

私が生きていたってどうにもならないんです

ちからが私には無いんです

うんざりするんです すべてのものに

普通の人のもつ美しさが私には無いのです

無だだ 馬鹿げたことだと思ふ事を

そのまま続けてゆく気にはなれないだけです

私は自分勝手な悪い子です

悪い子が生きていてどうなるのかしら

そうでしょう





中学時代

月

あなたは 良く焼けた
火ばしみたいな色ですね
でも あなたは自分で
燃えているんじゃないかと
反射しているんだそうですね
だったらあなたは
ひきょうです

おや うさぎのもちつきじゃなく
私には一人の少女が見えました

友へ

こっちに来て一諸に居ましょう
いゝいゝいゝいゝいゝいゝいゝいゝ

私の体の暖かさと

あなたの体のあたたかさと

私の体の冷たさが

いつか一緒になって暖かく

二人の間を流れると思いますから



高校一年

夕暮になったら

夕暮になったら

あなたのお部屋の窓をいっぱいあけて

青い空気をいれて下さい

白い蛍光灯は空気を乾かしますから

もちろん消して

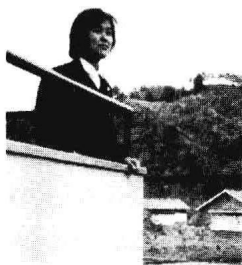
もしかするときれいな悲しみが

あなたの胸をしめらすかもしれない

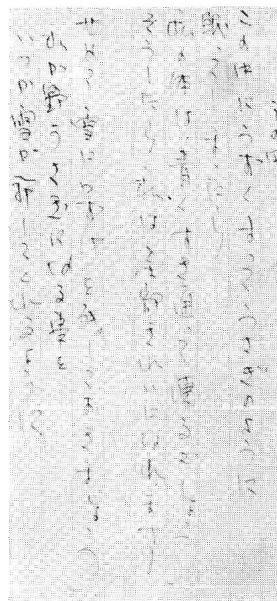
だったら あなたと私は同じなのです

お魚のように息をひそめましょう

夕暮になったら



高校二年



日記帳より



小学時代母と

み ぞ れ

みぞれは舞わない

みぞれは まっすぐに落ちる

ちっぼけな水滴と

大きな雪の塊は

争っているように早い

ボタツと落ちて

スーッと消える

だから

みぞれはなんだか悲しい

雪には余裕があるのに

みぞれにはない

なんだかあの人に似ている

みぞれの音は寂しい

みぞれは花びらのようにきれいなのに

みぞれはなんだか哀しくおかしい

道化師のようにみぞれは消える

みぞれの暖かさの内には

誰も入ってゆけない

だからみぞれの暖かさを

誰も知らない

みぞれは舞わないⅡ目次

◆ 13 ～ 15歳のころ

自分について * 19

愛情 * 22

「良い人」ということ * 25

飾るということ * 28

私の幸福論 * 31

朝と私 * 33

詩



夕やけ * 36

水をまく * 37

わからない * 38

月 * 38

貝がら草 * 39

くだもの屋の店先きで *

少女 * 42

朝 * 44

顔 * 45

からの中 * 46

線 * 46

梨 * 47

夜と少女と日記帳 * 49

◆ 16歳のころ

私、そして愚痴 * 65

夕暮と私 * 70

■ 詩

貝がら * 72

原始人 * 73

ぶどうの実 * 74

テスト前夜 * 75

あなたに * 76

山椿 * 78

友へ * 79

不安(自然へ) * 80

真夏の幻想 * 81



創作

水蓮の花の物語 * 83

五月の季節 * 105

◆ 17歳のころ

日記 * 119

詩



みぞれ * 171

大野幹 * 172

夕暮になつたら * 175

ある日 * 176

書簡（関根菊枝さんへ） * 178

背中 * 196

栗 * 199

二つの思い出 * 200

「異邦人」を読んで * 206

入選して * 210

遺書 * 212

青春の危機をめぐって・栗原克丸 * 214

島田清子年譜 * 220

養慎・前田亜土